

# 仰げば高き(校長便り H31 No.1)

兵庫県立生野高等学校 第74回入学式式辞 校長 松 中 泰 幸

生野高校にまた春がめぐってまいりました。本日この佳き日に、朝来市理事兼まちづくり協働部長・木村吉宏様、神河町副町長・前田義人様を始め、多数のご来賓並びに保護者の皆様のご臨席のもと、兵庫県立生野高等学校第74回入学式が、このように盛大かつ厳粛に挙行できますことは、この上ない喜びであります。

ただ今入学を許可いたしました75名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。私達教職員並びに在校生一同、心から皆さんの入学をお祝いし、本校生徒としての仲間入りを歓迎いたします。

皆さんは、本日晴れて生野高等学校の生徒となりました。これは、皆さん一人ひとりの努力のたまものであると同時に、家族の方々、小・中学校の先生、また、直接・間接に皆さんを見守り育ててくださった数多くの人たちの協力と支援を得て、初めて手にすることができた幸せでもあります。皆さんの喜びは、多くの方々の喜びでもある、そのことに気づいていますか。感謝の気持ちを忘れることなく、これからの高校生活を通して、高い知識と教養、豊かな人間関係、健やかな心と体を備えた人間として自らを高めていくことで、これらの方々のご恩に報いてほしいと思います。

ではこの3年間を皆さんはどう過ごせばいいのでしょうか。二つお話をします。

まず、先月引退したイチロー選手の言葉にヒントがあります。彼は引退会見の中で「自分が人より努力したかどうかは知らない」と何度か繰り返して述べています。つまり彼は人との比較には関心がない。自分の納得のいく努力を重ねたかどうか、強いて言うなら、昨日の自分と比べて一歩進めたかどうか。そのことを大切にしています。

学校には平均点なら50、偏差値という物差しがあって、私たちの考え方に大きな影響を及ぼしています。ついつい人と比べて、一喜一憂してしまうのです。

しかし、生野高校が大切にしたいのは、能力よりモチベーションです。皆さんには順位より、自分のやりたいと心動かされることに、こだわってほしいのです。いい成績をとるために勉強するのではなく、人の役に立ちたくて看護の仕事に就きたいから勉強する、そんな風であってほしいのです。成績のいい人もそうでない人も、やりたいことのために自分を高めるのです。3年間で、自分のスイッチの在りかが見つかればいいですね。スイッチさえ入れば、皆さんはどんどん伸びます。そんな生徒を大勢見てきました。

二つ目は、小さな学校の活かし方です。1学年2クラス全校でも6クラスの本校は、一人ひとりの出番が早いのです。コンテストがあるので参加しませんか、地元の祭りがあるのでボランティアお願いします。フランス人が来るんですが、ホームステイ先をお願いできませんか。生徒会役員に立候補しませんか。ちょっと面倒な気もするけれど、それぞれの体験が小さな失敗も含め、良き経験となって皆さんの成長につながっていきます。勇気を出して一歩前に出てみる、これが二つ目のヒントです。

また、教職員にとっても、小さな学校ゆえ、一隅を照らしやすいのです。わかる喜びとできる自信を与えられるよう教職員一丸となって取り組んでまいります。

最後になりましたが、保護者の皆様に対して、お子様の本校入学を心からお祝い申し上げます。本日も確かに、お子様をお預かりいたしました。3年後の卒業時には、生野高校に入学させてよかったと喜んでいただけるよう、私どもはあらゆる努力を惜しまずお子様の教育に当たります。教育の基盤として大切なものは、教職員と生徒・保護者との信頼関係であります。それはお互いの思いやりと率直な物言いによって築き上げられるものであると思います。保護者の皆様、本校教育に対するご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

それでは新入生の皆さん、本日の感激を忘れることなく、勉強に部活動に思う存分持てる力を発揮していきましょう。皆さんにとって我が生野高等学校での生活が貴重な青春の3年間になることを祈念して式辞といたします。(平成31年4月8日)